

様式第2（第5条関係）

会議録

1 附属機関の名称

犬山市自殺対策推進協議会

2 開催日時

令和2年1月24日（金） 午後2時～3時30分

3 開催場所

市民健康館 204会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 宮崎 貢一、黒川 淳一、柳澤 知里、木村 寛子、米井 ちさと
森川 小夜子、鈴木 君子、齋慶 辰也、山口 将洋
(2) 執行機関 吉野健康福祉部長、健康推進課（三輪課長、野村補佐、額額補佐、山本、
堀田、古谷、間内、中根）

5 議題

協議事項

- (1) 犬山市の自殺の現状について
(2) 犬山市における自殺対策事業について

その他

6 傍聴人の数 0人

7 内容

(1) あいさつ

事務局：定刻になりましたので、これより令和元年度犬山市自殺対策推進協議会を開催します。
委員の皆様におかれましては、ご多用のなかご出席いただき誠にありがとうございます。
それでは、まず始めに、会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長：日ごろから精神科医療に対しましてご尽力ご協力いただいております。御礼申し上げます。

自殺対策推進協議会ということで、つい最近自殺者の速報値が出てきてまいりまして、
2019年は2万人きりそうではないかというところです。10年前のことを思いますと、い
いペースで減ってきているのではないかなと思います。多分この減り方のペースは、交
通事故死者数を迫ったところまでできているのではないかと非常にうれしく思って聞いて
はいたのですが、亡くなられた方の病気の質とか見ておられますと、既遂してしまう人は、
やはり双極性障害みたいな感じで、本物の内因性といわれる精神科の患者さんで、昔か

ら自殺のリスクに関しては変わらないという感じがうけとれます。それに比べまして、いわゆるいじめられたとか、人柄上の問題とか行き場所上の問題とかを抱えて、自殺されるケースは、ずいぶん減っているような印象をうけます。

そうは言いましても、つい最近、岐阜市の子供さんの自殺の案件が報道されておりましたし、なくなつてはおりません。この近隣でパワハラのケースが報道されておりました。いろんなところで、やはりメンタルに問題を抱えておられるケースも多いとは思います。そういう問題は社会的には騒がしいですが、この地域では1件でも出したくないという意思表示をこの協議会を通じて、地元住民の方々に推進していかなければいいかなと思っています。

昨年は、自殺対策の冊子なんかを作らせていただいております。この地域でどのような方向性で対応していくのか方向性を指示示すことができたかなと思っております。自殺の話は、口幅ったい内容で、なかなか難しいところではあるかもしれません、声かけをしていただける方とかを、地元で増やしていかなければいいかなと思っておりますので、どうぞ今年も含めてですが、ご指導とご協力賜りますようよろしくお願ひいたします。

事務局：ありがとうございました。

(欠席委員の報告と会成立について説明)

(資料確認)

会長：(署名者の指名)

(2) 協議事項

会長：協議事項（1）の「犬山市の自殺の現状について」について事務局より説明願います。

事務局：(犬山市の自殺の現状について説明)

会長：犬山市人口が7万人ちょっとなので、平均に比べれば少ないは少ないですが、1件でも出てしまふと、もともと総数が少ないので比率の割合が随分変わってしまいます。しかし、そのような数字の扱いの問題については置いておいて、若い人の比率が高いというのは問題になってきます。大前提として1例でも出したくないのですが、20代の若い方の自殺が高いのは課題になってきます。

犬山市での自殺の特徴ということで、年配のご高齢の男性の方というのが、全国と同じようにあがってきます。しかし、20代男性の若い方に多いのは問題で、基本的には、職場のところで、有職者が多いので、職場で何か悩みがあって、行為に至ってしまったのではないかと。そもそも雇用関係が不安定であるというのはテレビでも言われていますが、考察としてはありえるのかと思います。商工会議所など地域の企業の方々と連携をしていかないとなかなか進んではいかないと思います。メンタルヘルス対策を企業で頑張っていきましょうといつてもなかなか。よほど大きな企業はやってはいるのでしょうか、規模が小さくなってくるとそこまで手がまわらないというところが非常に多い。私も大企業さんには呼んでいただけるのですが、中小企業さんとは、話す機会がない。担当者も決まっているわけではないので、こういったところへどうやって情報を流していくかが問題である。対応しきれない相談や悩みを抱えていたら相談窓口を紹介していくのがいいのではないかなと思っています。

もともと多い、多数派を占めるご高齢の方々はおそらく病気や介護を苦にしてという方が多い。こういった年齢の方々は何かしらの医療機関にかかっておられる方が多いので医療機関の窓口や掲示板を使わせてもらって、何か相談、お困りごとがあればご相談くださいねといった簡単なきっかけみたいなものを掲示させてもらうのもいいかと思います。なかなか皆さん切り出しにくい話題だとは思ってはいますが、お困りのことがありましたら相談してください。また、計画には相談窓口もたくさん紹介されておりますので、広く周知していただきとにかくまず案件を吸い上げていくところから対応していくないと話が結びつかないかなと思っております。いかがでしょうか。ご意見とかありませんか。では、先に進めさせていただき、後でまた統括していくことにします。

協議事項（2）「犬山市における自殺対策事業」について事務局より説明願います。

事務局：（犬山市における自殺対策事業について説明）

会長：ただ今の事務局の説明に関して、何か質問とかご意見とかございましたでしょうか。かなりいろいろ自殺対策事業がメニューとしてはかなり充実していると思っています。事務局の方では、やった際、受けられた方の感想とか聞いたことはありますか。こうしてほしいとか、受けてよかったですとか、ゲートキーパー教育の時には、アンケートを取っているとは思いますが、感触とかどうですか。

事務局：ゲートキーパー講座を受けられた方は、参考になったとかお話を聞けて良かったという前向きな意見が多いです。ゲートキーパー講座を周知しても市民の方に名前がまだ知られていないのか、自殺という言葉へのハードルが高いかもしれないが、受講者がなかなか増えているかいないということがあります。

会長：こういうのをやってほしいというものや意見はありますか。

事務局：講師の先生によって内容やすすめ方が違い、ゲートキーパーはこういうものですよという話があった時には、実際にどのように相談に対応したらいいのかという具体的な方法が知りたいという意見もありますが、そういう形でやっている講座もあるので、講座によって意見が変わってきます。

会長：何か新しいことを始めようとすると動機をつけないといけない。インセンティブまではいわないですが、これを取り込むといいことがあるのではないかという話になると期待できる。タバコもそうですよね。真っ黒な肺を見せてやめなさいと言ってもやめない。タバコをやめるといいことがありますよといいことで話をしないとみんなのってこない。自殺という単語にとらわれずにこういうところでこういう話を聞いてもらうことで、ゲートキーパーさんに限りませんがどこかでつらい思いをしたから興味をもってもらえたのではないかと推察すると、こういうところでコミュニティとかネットワークとかがあるとわかっていていただけるとその方の安心材料になるだけでも、いいことがあってよかったなと思えてもらえば、参加者が増えていくのではないかなど思います。せっかくこうやっていろいろ企画をしてもらい、せっかくの機会ですので何とか皆さんに利用していただきたい、参加していただきたいと思っています。消費生活もそうですし、外国人の方が最近増えてきて、昔にはないトレンドかなと思っています。最近は学校の中でも海外からの留学生も非常に増えています。この地域でも増えています。そもそも言葉の問題とか非常に困ることは多くて悩みはどこにあるのだろうとは思うので

ですが、悩みを掘り起こす仕掛けづくりが非常に大事かなと思っております。言葉の講座等もやっておられるみたいですが、そういう機会等を活用していただきたい。今日ここにはおみえではないですが弁護士の先生等も別の角度での助言をしてくださって、非常にありがたいなと思って聞いておりましたけど、ぜひ広く周知していただければと思います。仕掛けづくりも考えていくといいかなと思っております。

私共の相談は、ほとんどが、子育てに関すること。子育てといっても、引きこもり世代になってしまった20代30代の子育ての話が多くなっている。なかなかこれをやつたらいいですよという話にはならないのですが、お母さんが相談に来ていただきてお母さんの調子が良くなるのを横目で見ている本人がうらやましいなと思わせないと医療につながらない。

何かまたこういうイベントや事業などがございますが、こういったところでこういったことをしたらしいのではないかとか底上げにつながるのではないか等、何か思いついいた時にはまたお聞きかせいただければ嬉しく思います。では、各機関から自殺対策事業について報告等ありましたらお願ひします。

委 員：○○の方で行っている事業のご説明をさせて頂きたいと思います。

相談というのをやっていまして、面接での相談もありますし、電話での相談もあります。家庭訪問もやっています。平成30年度の数で言いますと面接は延べ328件、電話が1566件になっております。自殺に関する相談だけでなく全部の相談件数になっています。

相談されるのは、ご本人というよりもやはり家族、近所の方からの相談で、受診させたいけどなかなか病院に連れていけないがどうしたらいいですかという内容が多いという状況になっております。

アルコール専門相談も平成29年度から開始しております。犬山病院の先生にお越しいただいて対応をお願いしております。断酒会の相談員さんにもお越しいただいて自身がお酒で失敗したという経験を持つご本人なので、体験談等を本人が来た時には語っていただいております。アルコール依存の方のうつ病との合併も多いということを聞いておりますので、こういったところをやっていくことで自殺対策につながっていくのかなと思っております。自殺未遂者支援、地域連携事業というのがありますが消防の方にも入っていただいて各市町の方にも来ていただいて、警察の方や高齢者に関わる方にも入っていただいているものですが、未遂者の再度の自殺未遂、自殺企図を防止することで、事業の中でやっている取り組みとして、つなぐカード・リーフレットを使っています。この地域で相談できる機関の連絡先を載せてあるカードとリーフレットになっています。特に警察とか消防、病院の救急外来の方にポケットに入れておいていただいて、実際に未遂をされた方に対応したときに可能であればこれを渡していただいて、つらくなったら使ってもらえるといいよということを伝えていただくという取り組みをやっております。毎回全部に配るというのはやはり難しい。未遂の程度によっても、意識のない状態の方もいれば怪我をされている方もいるので可能な状況の時に渡してもらっています。そんなに1年の計で言っても何十枚渡せたというレベルではないのですが、話の内容からして、おそらくこれを見られて電話してくださったのかな

というあくまでも推測ですが、年に数件〇〇の相談につながっています。件数をみると非常に少ないですが関係機関が連携をとりあう一つのツールにもなっているという印象を受けています。実際に救急隊がこれを持たれることによって未遂の人がどこかとつながってもらった方がいいのかなという意識づけにもなっているのかなとも思います。

情報提供ということで、2月25日自殺対策の関係でネットワーク会議を主催いたします。決まった関係機関が出席していただいている会議ですが、今年度はその会議の中で、自死遺族の方への支援も内容として入れる予定です。自死遺族支援は、必要だなと思ってはいますが、行政の立場としては、一歩踏み出しにくい部分でもありますし、実際に自死遺族の方は自分が住んでいる地域の窓口に行きにくいということも多々あろうかと思つていて、今後どうやってつないでいくのかなというのが課題かなと思いました。

「リメンバー名古屋自死遺族の会」の代表理事の方に来ていただき、取り組みの紹介をしてもらう予定です。先日の打合せの時に紹介のリーフレット・自死遺族の方が書かれた文集・日記のようなものを頂きまして、読ませていただきました。ネットワーク会議にご出席された方にはそれをくださるそうです。打合せの時に言ってみえたのが、亡くなられた後、何年たっても何年たっても暗い気持ちはなかなか消えない。9月に自殺防止のキャンペーンがあちこちでやっているのですが、その場面を見ると辛くて、辛くてたまらない、あの時期は地獄のような辛さといわれる自死遺族もいると聞きました。行政としては、普及啓発という部分、役割としては仕方ない部分ですが、やるときには頭の片隅においてやらないといけないのかなと感じました。12月に自死遺族の苦悩に寄り添うということで、深夜の電話相談を始めたという記事が中日新聞に載っていたので、また見ておいてください。

「いのちの電話」とか自殺予防に特化した相談の電話は耳にしていたが、自死遺族に特化した電話相談は全国的に珍しいと思います。自死遺族の方はどうかに足を運んで顔を合わせて話すのが辛いという方も多いので電話という形でかけて話してもらうというのも一つのツールとしていいのではないかなどと言つておられました。自死遺族専門のダイヤルで、実際にお父さんをなくされた心理カウンセラーさんが開始したということで、「アフターザレイン」という名前の電話相談ということです。

会長：自死遺族の方は9月がつらいということを初めて聞きました。角度を変えて聞かないといわかりませんね。ありがとうございます。では、他の機関もありましたらお願いします。

委員：〇〇では、網目の中で糸になったらいいなということで、いろいろ相談事業を展開しております。心配事相談を毎週木曜日に福祉会館でやっております。何でも相談してください、気持ちが楽になりますよねということで相談窓口を開設しております。仕事の愚痴や家族のことなど何でもお聞きします。解決するような場ではないが、適切な機関におつなぎしますという心配事相談や法律相談もしております。毎月1回第1木曜日の午前中に弁護士さんに入っていただいて、おひとり20分という限られた時間ですが法律的なことで聞きたいよという方のご相談をお受けしております。消費生活相談というのが19番にありますが、消費生活に特化したものではなく、息子が離婚すると相続の問題とか、労働問題とか法律的なことをお聞きしていただけるような事業です。福祉課が窓口になりますが、基幹相談支援センターという障がい者の方を対象にした何でも

相談がありまして、日々、お電話を頂くのですが、お気持ちに沿うようなご相談というのもあります。

また、居場所づくりということで地域の方と関わると自殺率が低いとか孤独を感じないと低いよということも言われております。「はなみずき」といいまして、こんな場所があるんだなと思っていただけたらと思うのですが、ボランティアさんがいて、そこで、折り紙していく寝ていても、話したいことがあれば話してもいいよという誰でもどんな方でもきていただけて大丈夫ですというフリースペースもさせて頂いています。

最後に感想になりますが、自殺された方の背景になる危機経路というところで、どこか相談窓口にお話しいただけなかったのかなというところで、頂いた言葉を大切にしながらまわしなくていい対応はせずに支援者としてスキルアップしていくかなければいけないと思っているところであります。以上です。

会長：なかなか難しいですよね。対応しきれないことが多いですよね。

その他ということで、事務局からお願ひします。

事務局：先程もお伝えしましたが、来年度の6月に厚生労働省へ令和元年度の実績報告があります。犬山市自殺対策計画に事業が載っている関係団体におきましては、また依頼させていただきますので、ご協力お願ひいたします。また、来年度の本会議につきましては、7～8月頃を予定しておりますので、お願ひいたします。

会長：何か質問等ありますか。

それでは本日の協議事項は終了となりますので、事務局へお返しします。

事務局：これをもちまして会議を終了いたします。

令和元年度犬山市自殺対策推進協議会次第

日 時：令和2年1月24日（金）

午後2時～3時30分

場 所：市民健康館 さら・さくら

204会議室

1 あいさつ

2 協議事項

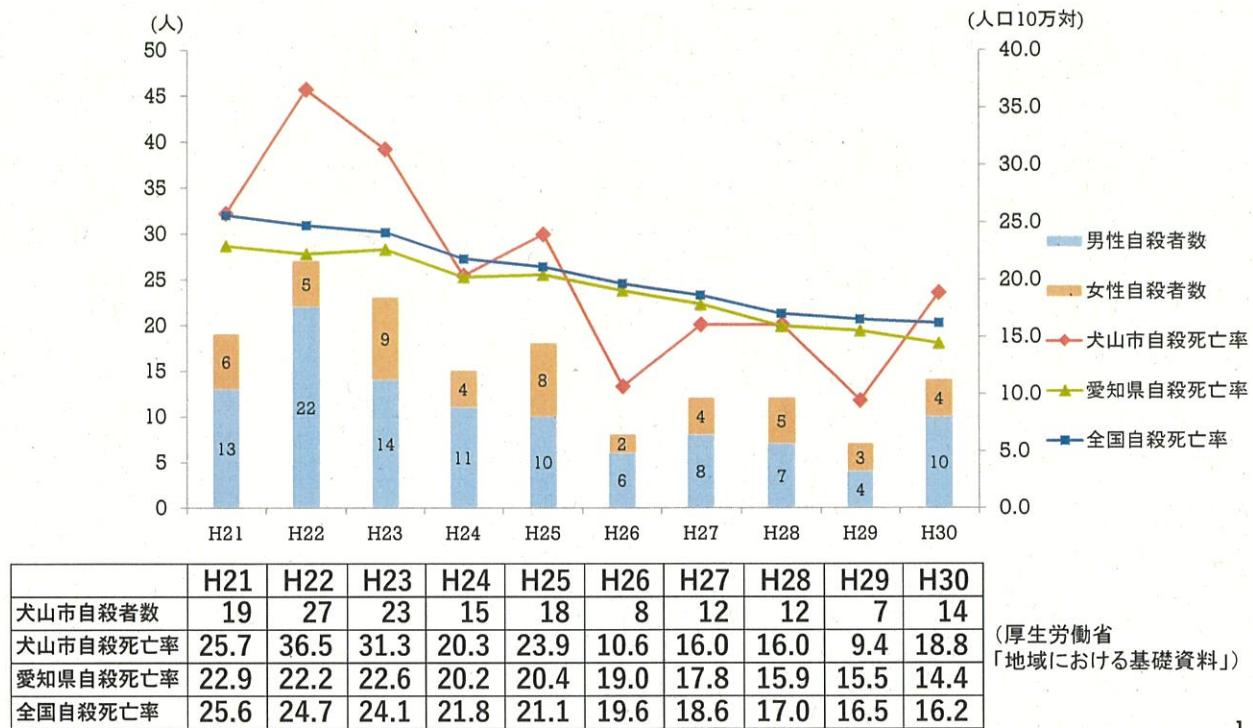
(1) 犬山市の自殺の現状について

(2) 犬山市における自殺対策事業について

3 その他

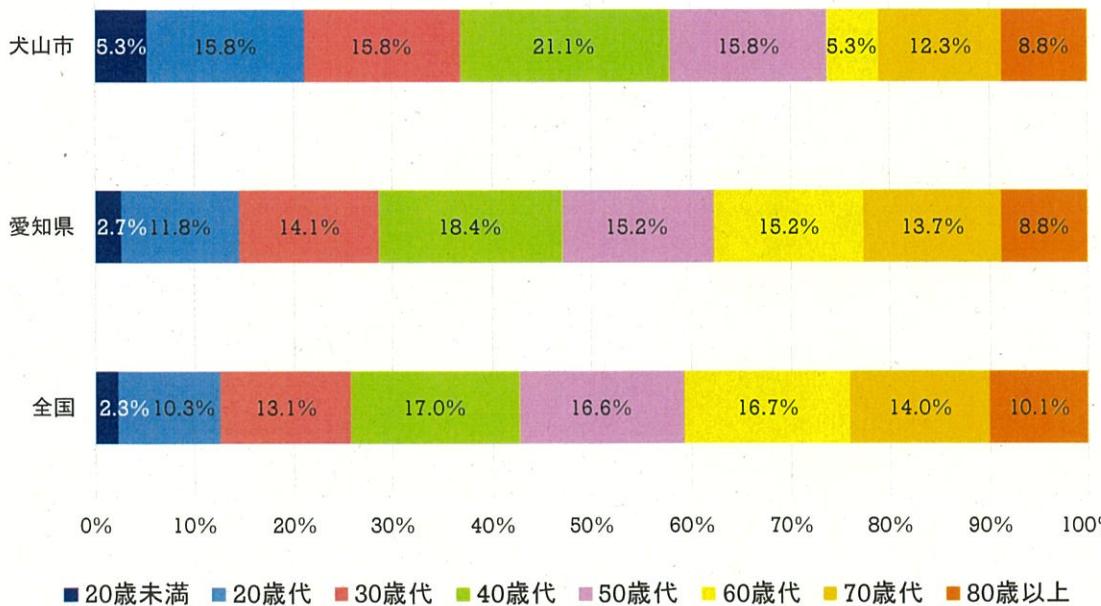
犬山市の自殺の現状について

犬山市自殺者数と自殺死亡率



1

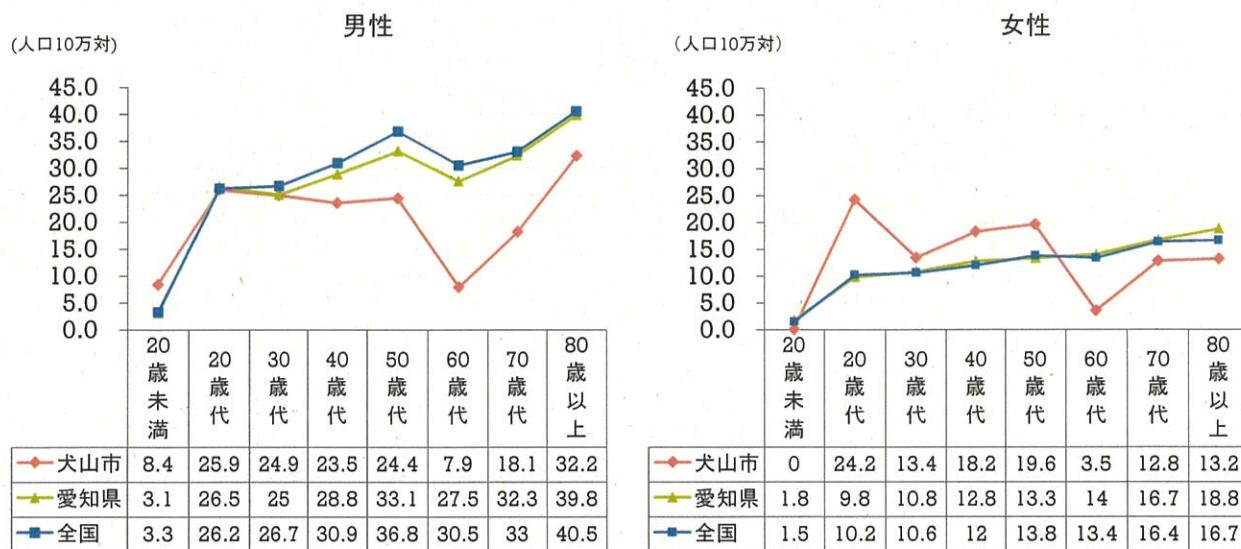
年代別自殺者割合



「地域自殺実態プロファイル(2018)」(H25～29合計)

2

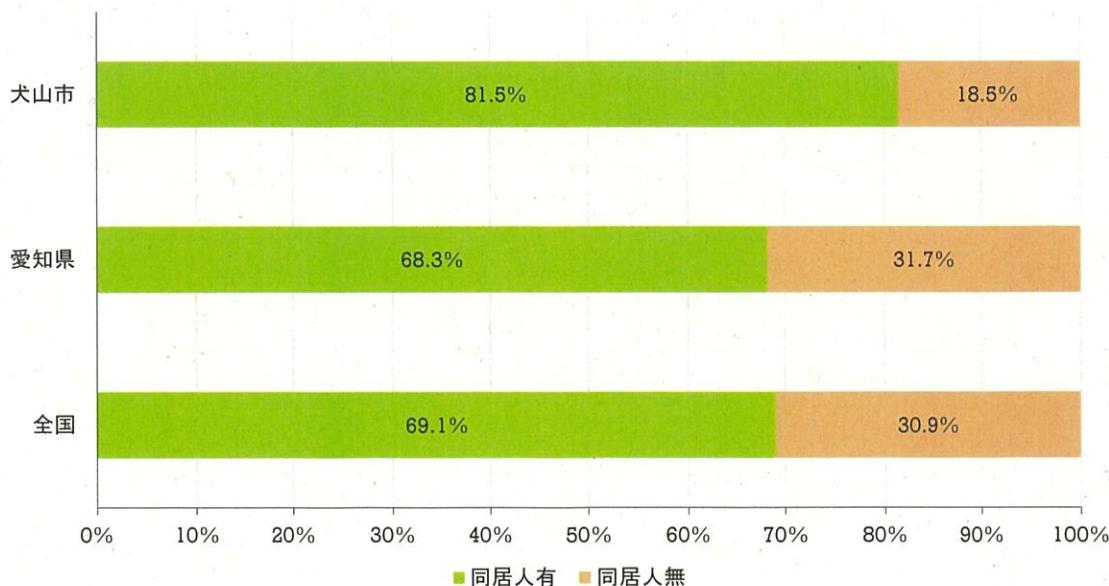
性・年代別自殺死亡率



「地域自殺実態プロファイル(2018)」(H25～29合計)

3

自殺の同居人の状況



「地域自殺実態プロファイル(2018)」(H25～29合計)

4

自殺者の内訳

年代	男性		女性		合計	
	有職者	無職者	有職者	無職者	有職者	無職者
20～39歳	9人	2人	5人	2人	14人	4人
40～59歳	9人	3人	2人	7人	11人	10人
60歳以上	0人	9人	0人	6人	0人	15人
合計	18人	14人	7人	15人	25人	29人

職業	犬山市	全国
自営業・家族従業者	1人(4.0%)	8,596人(20.3%)
被雇用者・勤め人	24人(96.0%)	33,771人(79.7%)

「地域自殺実態プロファイル(2018)」(H25～29合計)

犬山市の主な自殺の特徴

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率 (10万人対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位 男性60歳以上無職同居	8人	14.0%	24.9	失業(退職)→生活苦+介護の悩み (疲れ)+身体疾患→自殺
2位 男性40～59歳有職同居	8人	14.0%	19.7	配置転換→過労→職場の人間関係の 悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位 女性40～59歳無職同居	6人	10.5%	23.4	近隣関係の悩み+家族間の不和→う つ病→自殺
4位 男性20～39歳有職同居	5人	8.8%	18.6	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態 →自殺
5位 男性20～39歳有職独居	4人	7.0%	55.7	①【正規雇用】配置転換→過労→職場 の人間関係の悩み+仕事の失敗→う つ状態→自殺/②【非正規雇用】(被 虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦 →借金→うつ状態→自殺

「地域自殺実態プロファイル(2018)」(H25～29合計)

犬山市における自殺対策事業

主な自殺対策事業

事業名	目的・内容	平成30年度 実績	令和元年度の 取組
ゲートキーパー講座	市民及び市職員等に対し、ゲートキーパー(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ見守っていく人)講座を実施し、ゲートキーパーとしての役割を担う人を増やすことで悩みを抱える人の支援を早期に行えるようにする。	参加者:延べ143人 (市民対象:2回×1クール、 介護関係事業所対象:1回、 福祉関係事業所対象:1回)	【12月末実績】 実施回数:4回 参加者:116人 (市民・薬剤師・保育士対象に実施。) 2月に市職員対象に実施予定
こころの悩み相談	悩みや困難を抱える人が身近なところで相談が受けられるようになるために、地域の精神科専門医による相談を実施する。	実施回数:4回 相談者:14人	精神科医師・公認心理師による相談を12回(月1回)実施 【12月末実績】 相談者:17人
自殺予防キャンペーン	国の自殺対策強化期間である9月及び3月に、自殺予防キャンペーンを実施し、自らのこころの健康を保つ方法や、身近な人の自殺のサインに気づき、必要な対応ができるよう情報提供を行う。	9月は各事業等で啓発資材を配付。 3月の自殺対策強化月間に犬山駅で実施。	9月に街頭キャンペーンを実施。庁内関係各課で啓発資材の配布。 3月に街頭キャンペーンを実施予定。

7

事業名	目的・内容	平成30年度 実績	令和元年度の 取組
親子教室・ スキップ教室	健康診査事業・相談事業で把握した母の育児ストレスや負担感を軽減することや親と子の関わりを学んでもらうための教室を保健センターで実施。スキップ教室については、子育て支援センターや児童センターで実施。その中で母の精神的な不安を把握し必要な場所へつなげる	参加者: 親子教室 延384人 スキップ教室 延173人	継続実施 【12月末実績】 参加者: 親子教室 延292人 スキップ教室 延108人
子育て相談	心理相談員による育児不安や育児ストレスを軽減するための相談	相談件数:20件	継続実施 【12月末実績】 相談件数:8件

8

犬山市自殺対策数値目標

(1) 自殺予防の段階別目標

指標項目	現状値 2018年度	目標値 2022年度
一次予防(未然予防)		
SOSの出し方等に関する教育を実施している学校の割合	78.6%	100.0%
体のことや心配ごとについて相談できる人がいない児童・生徒の割合	児童 8.2% 生徒 12.0%	児童 6.0% 生徒 10.0%
自殺対策における街頭キャンペーンの実施回数	1回	2回
悩みや病気に関する相談先を知っている人の割合	—	60%
二次予防(危機介入)		
ゲートキーパー講座の受講者数	104人	800人
ゲートキーパーについて知っている人の割合	7.2%	30%
市職員の自殺対策研修受講者数	23人	500人
三次予防(連鎖予防)		
自死遺族支援について知っている人の割合	39%	50%

9

(2) ライフステージ別目標

指標項目	現状値 2018年度	目標値 2022年度
SOSの出し方等に関する教育を実施している学校の割合	78.6%	100.0%
ゆったりとした気分で子どもと過ごす人の割合	84.6%	88.0%
悩みやストレスの相談相手がいる人の割合(40~64歳)	77.0%	85.0%
地域とかかわりを持っていない人の割合(65歳以上)	12.2%	8.0%

(3) 自殺率の成果目標

指標項目	現状値 2018年度	目標値 2022年度
自殺者数(5年間平均・人)	13 (H24~H28)	10人以下
自殺死亡率(5年間平均・人口10万対)	17.4 (H24~H28)	13.5以下

10

計画策定後のスケジュール(予定)

平成30年度	3月	犬山市自殺対策計画策定
令和元年度	6月	市民対象にゲートキーパー講座
	7月	依頼のあった企業に対しメンタルヘルスに関する講話
	8月	広報(8月15日号)に自殺対策計画策定について掲載
	9月	保育士・市民対象にゲートキーパー講座
	9月	自殺予防週間 街頭キャンペーン
	10月	薬剤師・市民対象にゲートキーパー講座
	1月	犬山市自殺対策推進協議会
	3月	自殺対策強化月間 街頭キャンペーン

11

令和2年度 ～ 令和5年度	6月末予定	「自殺対策計画進捗確認シート」提出 ※厚生労働省
	7～8月頃予定	犬山市自殺対策推進協議会
	9月	自殺予防週間 街頭キャンペーン・啓発資材の配布
	1月	新成人対象に啓発資材の配付(相談機関等の周知)
	3月	自殺対策強化月間 街頭キャンペーン・啓発資材の配布
	年数回	ゲートキーパー講座
令和4年度	アンケート調査	
令和5年度	第2期犬山市自殺対策計画策定(予定)	

12